

「子どもと学ぶ バリアフリー」パンフレット編集

子ども向けバリアフリー学習のガイドライン作成調査

2007年度

民間コンサルタント/国土交通省 総合政策局 安心生活政策課

<http://www.mlit.go.jp/barrierfree/transport-bf/others/kodomobfpamph.pdf>

業務概要

目的

全国でバリアフリー整備が進む中で、ハード面の整備と共に、多様な人が共に暮らしていることにお互いが理解を深め、支え合う意識づくりも重要であると言われてきた。このような意識の醸成には子どものうちからバリアフリーの心を持って、具体的に行動できることが重要との認識から、子どもがバリアフリーを体験的に学ぶ際のポイントを示し、取組み方法や効果、具体の事例を紹介するパンフレットを作成した。なお、このパンフレットは、学校・地方公共団体・NPO・ボランティア団体等が活用することを期待している。

概要

検討に際し、小中学校等の現場で実際にバリアフリー学習に携わっている、障害のある先生はじめ、学識者の参加した「有識者検討会」を設置し検討を進めた。

子どもたちがバリアフリーを体験的に学ぶ様々な方法を、その主旨、実施する時のポイント、実施事例等を交えて紹介している。また実際の取組みにあたっては、障害のある当事者と共に体験することで、バリアやバリアフリーを実感でき、誤解のない障害理解が進むと提案している。

パンフレットの概要

バリアフリー教室のポイント

①高齢者や障害のある人などと一緒に取組みます

一緒に学ぶことにより“障害のある人は特別”“かわいそう・大変”といった意識が変わりバリアフリーへの理解が深まります。

②具体的な行動に結びつくよう、実際にやってみます

相手のニーズを尊重し、適切で具体的な行動につながる効果があります。

③「環境がハンデを生む」ことに気づきます

高齢者や障害のある人が“大変”と思う様々なバリアが、日常生活や社会活動をしづらくしており、1人ひとりの能力がハンデの原因ではないことを学びます。



バリアフリーを学ぶ方法

①知ろう・気づこう

まちにはどのような人が暮らしているのかを知る。バリアとは何かを知り、気づく。

➡ 「読みきかせ」「調べ学習」「お話し会」

②理解しよう・確かめよう

障害のある人の暮らし方やまちの歩き方を体験することにより、バリアを実感し理解を深める。障害のある人への介助方法を学び、必要な手助けを体験的に理解する。障害のある人と共にまちを歩いて、バリアやバリアフリーを確かめる。

➡ 「疑似体験」「介助体験」「まち歩き」

③行動しよう・実践しよう

バリアフリーの“もの”を障害のある人と共に実際に考えて作り、使って実感し、検証する。

➡ 「ものづくり」

